

第4学年 国語科学習指導案

4年 27名

指導者 山本 千尋

1 単元名 お礼の気持ちが伝わる手紙を書こう『お礼の気持ちを伝えよう』（光村図書 4年上）

2 単元について

本学級では、「ありがとう」の気持ちを伝えることの大切さを指導している。しかし、伝えられた方は、何に対しての感謝なのか判然としていないことがあった。そこで、「ありがとう」のメッセージを書き、友達に渡す活動を取り入れた。ほとんどの子が、「鉛筆を拾ってくれてありがとう」や「手紙を配ってくれてありがとう」のような淡白な内容であったが、2名だけ、その時の自分の気持ちの変化や、これから自分ができることなど、具体的に書いてあった。どちらのメッセージをもらうのが嬉しいかを子どもたちに尋ねると、全員が具体的なものの方を選んだ。以上のことから、具体的な言葉で感謝の気持ちを伝えてもらった方が嬉しいと感じる子が多いということや、自分の考えや気持ちを表現する言葉をうまく選べない子がいるということが分かった。そして、もらうと嬉しいメッセージを書くためにはどうすればいいのかという問いをもつ子どもが増えてきている。

本単元では、遠足でお世話になった人に向けて、お礼の気持ちを伝える手紙を書く。書く際には、誰にどのようなことを書いてお礼の気持ちを伝えたいのか、相手意識をもって書く内容を考える。この活動を通して、子どもが自分の考えや気持ちをうまく表現できるようにしたい。また、手紙を出す前には、お礼の気持ちがしっかり伝わる表現になっているかということや言葉遣いが適切かどうかなどについても考えさせたい。そのため、推敲の方法についても学習する。

本時の目標達成のため、どうすればお礼の気持ちがより伝えられるのかを、子どもたちの話し合いから言語化していく必要がある。そのため、オクリンクプラスを用いて、お礼の気持ちが感じられる表現に線を引き、どうしてそう感じるのかを段階的に言語化できるよう指導する。また、言語化が苦手な子に対しては、そう感じた理由を引き出すために問い返し、学級で共有できるよう支援する。

3 単元の目標

- (1) 活動目標 お礼の手紙を書こう。
- (2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。 ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら書くことができる。	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。 ○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら書いている。	知識・技能 (1) ア・キ
○相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。	○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。	思考・判断・表現 B (1) ア
○進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書くことができる。	○進んで相手や目的を意識して伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、お礼の手紙を書くようとしている。	主体的に学習に取り組む態度

4 単元の構想表

学習活動と学習者の意識（全4時間）	主な指導・支援	評価規準
第一次…学習の見通しをもつ。 （1時間） <div>お礼の気持ちを伝えたいよ。</div> <div>どんな活動があったかな。</div>	○遠足の活動内容について思考ツールをもとに整理する。 ○2種類の手紙を提示し、お礼の気持ちがしっかり伝わる方法を共有する。	○お礼の気持ちが伝わる表現に気づいている。（発言・記述）
第二次…お礼の手紙を書く。 （本時）（2時間） <div>ここが礼の気持ちがしっかり伝わるね。</div>	○工夫した理由を言語化し、他の子どもたちも取り入れられるようにする。	○お礼の気持ちが伝わるよう工夫している。（発言・記述）
第三次…学級で共有する。 （1時間） <div>この表現が工夫していると思うよ。</div>	○友達が書いた手紙を読み、どこが工夫されているかを見つけ合うことで、全体で共有し、便箋に清書する。	○お礼の気持ちが伝わる表現を見つけている。（発言・記述）

5 本時の活動

（1）目 標 ①活動目標

お礼の手紙を読み合おう。

②指導目標

お礼の気持ちがしっかり伝わる工夫を言語化し、推敲にいかすことができる。

（2）展 開

学習活動	主な指導・支援	具体的評価規準
1 学習問題を共有する。 <div>お礼の気持ちがしっかり伝わるように、工夫して手紙を書こう。</div>	1 前時に使った思考ツールを使い、共有したことを可視化する。	
2 下書きをもとに、お礼の気持ちがよく伝わる部分を共有する。	2 オクリンクプラスで下書きを共有し操作することで、円滑に意見交流ができるようにする。 工夫した理由を言語化し、他の子どもも取り入れられるようにする。	○どうしてお礼の気持ちがしっかり伝わるのかを発信している。（記述）
3 書いた手紙を推敲する。	3 書けない子どもに対して、どちらの表現の方がお礼の気持ちがしっかり伝わるかを考えられるよう指導する。	○お礼の気持ちが伝わるよう工夫して書いている。（発言・記述）
4 本時の学習をまとめる。	4 次時に清書し、友達の手紙の中から工夫した点を見つける活動をすることを伝える。	

（3）本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	工夫した意図を言葉にしたり、自分の考えに合った言葉を選んだりして推敲している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	手紙に線を引き、どうしてそこからお礼の気持ちが感じられるのか考えをもつことができるようにする。

